

# 共に考える

## 「地域社会の中のYKKグループ」

YKKグループでは創業以来YKK精神「善の巡環」に基づいた事業活動を行っています。

ここでは、地域に根付きステークホルダーを大切にするYKKグループの取り組みの一部をご紹介します。

### 第9回ステークホルダー・ダイアログを開催

#### 「自然との共生」を踏まえたYKKグループ施設の活用



〈参加者の皆様〉左から

- ・取引先：平野 明 氏  
(平野工務店株式会社 代表取締役)
- ・環境団体：佐野 敦 氏  
(公益財団法人とやま環境財団 協働交流課長)
- ・自治体：牧野 恵美 氏  
(黒部市役所 市民生活部市民環境課 主幹)
- ・ファシリテーター：九里 徳泰 氏
- ・地域住民：能島 聡 氏  
(村椿自治振興会 副会長)
- ・海外留学生：許 先強 氏  
(富山県立大学大学院工学研究科環境工学専攻)
- ・消費者：稲垣 里佳 氏  
(富山県地球温暖化防止活動推進員)
- ・ナチュラリスト：松木 紀久代 氏  
(黒部峡谷ナチュラリスト研究会 副会長)

YKKグループは、ステークホルダーの皆様と意見交換するステークホルダー・ダイアログを2010年より毎年開催しています。第9回目（2018年4月27日実施）のダイアログでは、前半に富山県黒部市にあるYKKグループの社宅跡地で再開発を進めている

「パッシブタウン\*」を見学。後半には施設内にあるコミュニティセンターでステークホルダーの皆様とYKKグループの社員を交えて、施設を通じた地域とのつながりや活用方法について意見交換を行いました。

#### 富山県黒部市の各地で活用されているYKKグループの施設

YKKグループが「技術の総本山」と位置づける黒部にはYKKグループのさまざまな施設があり、その多くを地域の方々にも開放しています。例えば、YKKセンターパークにあるふるさとの森・水辺では絶滅危惧種も多く生息し、県内の小学生を受け入れることで次世代環境教育の場としても利用されています。また、2017年8月に竣工したK-HALLは、

あいの風とやま鉄道黒部駅前にあり、駅前周辺の賑わい創出に貢献しています。この施設は1階に店舗、2階に大小の多目的ホールを有しており、地域の方々にも開かれたスペースとして活用されています。このほかにも前沢ガーデンや荒俣のグラウンドなどのさまざまな施設が黒部市にはあり、まちづくりや地域活性化、憩いの場として活用されています。



K-HALL（地域の皆様にもご利用いただける駅前単身寮K-TOWNの共用施設）

## 共有スペースの新たな活かし方を考える

ダイアログで参加者の皆様が訪れた「パッシブタウン」では、YKKグループが社宅跡地を利用してまちづくりを行っており、2025年までに約250戸の整備を目指しています。ランドスケープのデザインでは、住まう人の心地よさを考慮しているほか、黒部の豊かな自然から得られるエネルギーを最大限に活用しています。また、地域住民の交流の場として利用してもらうための「センターコモン」と呼ぶ共有スペースが設けられており、季節に応じたさまざまなイベントや、子どもたちを対象とした環境教育の場として活用しています。

ダイアログ後半では、ステークホルダーの皆様が3つのグループに分かれ、それぞれYKKグループの社員を交えて、「センターコモン」の新たな活用方法と地域とのつながりについてワークショップ形式で、意見交換を行いました。アイデアを出すにあたっては、黒部らしい“自然”と“文化”を軸として、YKKグループがすべきこと、できることは何かをグループごとで具

体的に提案しました。

グループごとにまとめた提案の中には、富山の自然を活かした案として、近場の川に生息する魚のつかみどり大会や、施設内の落ち葉を集めて樹種を当てるクイズゲーム、かまくらづくりやトロッコ遊びなど子どもたちの参加を中心としたイベントも。その他には地元プロスポーツのパブリックビューイング、利き酒・利き水大会、そしてYKKグループ社員の多様性を活かし、各国／地域に赴任していた社員が中心となり世界各地のカレーを紹介するイベントや、自社の技術を用いた焼型で作る餃子イベントなど、さまざまなアイデアが挙げられました。



YKKグループでは、ワークショップでいただいたアイデアに耳を傾け、一つでも多く実現できるように検討し、黒部を知る場所・体験できる場所として、今後もパッシブタウンの利用価値を高め、地域の方々に還元していきます。



ランドスケープについて説明を受ける参加者



ワークショップ会場の様子



穏やかな雰囲気での意見交換



九里先生からの全体講評

### ステークホルダー・ダイアログを通して

2018年度は、黒部市の近未来型コミュニティ、パッシブタウンの活用を通じた自然と共生した魅力あるまちづくりに関して話し合いました。この活動はISO26000社会的責任規格の「コミュニティへの参画」および、国連SDGs（持続可能な開発目標）の目標11（一人当たりの環境上の悪影響を軽減、公共スペースへの普遍的アクセスを提供、経済、社会、環境面における地域間のつながりを支援）へとつながる社会的要請です。意見を受

けYKKグループが地域、行政と協働し実現へと導いてほしいと思います。



くのりのりやま  
九里 徳泰 氏

- 相模女子大学学芸学部教授 博士（工学）
- 富山県立大学大学院工学研究科 非常勤講師（環境経営）
- 富山市政策参与
- 富山市環境審議会会長

※パッシブタウン：黒部の自然エネルギーを活用し、電力や化石燃料などのエネルギー消費を抑えた「まちづくり・住まいづくり」を提案するプロジェクト

<https://www.passivetown.jp/>

## 共に考える「地域社会の中のYKKグループ」



写真左から  
神田和泉町町会長 小野田 文紀 氏  
神田和泉町副町会長 後藤 市郎 氏  
YKK / YKK AP取締役 吉田 忠裕



地域への想いを話っていました

### 地域とともに、ものづくりに挑戦し続ける

創業80年の節目に、東京・神田和泉町に完成したYKK80ビル。

神田祭をひかえた2017年5月、神田和泉町の町会長・小野田文紀氏と副町会長の後藤市郎氏をお招きし、取締役吉田忠裕（当時会長）と鼎談いただきました。

小野田町会長から、「ここ数年、神田祭の季節には必ず、おみこしをYKK80ビルの1階エントランスに置いて頂いていますが、昭和通りを行き交う大勢の人の目をひきつけています。ここは神田和泉町の顔のような場所。御社の粋なはからいに感謝しています」とのお言葉をいただきました。

後藤副町会長からは、「企業の方々にも、どんどん地域に入ってきてほしいです。いろいろな行事にも参加頂いて、一緒になって楽しくやっていき

いと思います」とお話いただきました。

吉田より、「私も昔から企業市民という言葉を使っていますが、社会の中では市民も企業も関係なく一緒なんだ、という想いを持ち続けていきたいです。YKKは1934年に日本橋蠣殻町に創業し、日本橋馬喰町、浅草雷門を経て、1963年、ここ神田和泉町に本社を構えました。古くから国内屈指の小間物繊維問屋があったからなのですが、これまで私たちは大いにこの地域の恩恵を受けてきました。だからこそ、このまちに対する愛情と、この地域に貢献したいという想いを強く持っています。今後も皆さんに喜んでいただけるよう、企業市民としての責務を果たしていきたいです」との意気込みをお伝えしました。

これからもYKKグループは、地域とともに歩むことを大切にまいります。

### 事業展開における「善の巡環」

YKKグループでは創業以来、国内外を問わず事業を展開する地域とのつながりを大切にしています。

創業者吉田忠雄は、こう語っていました。

“文字通り、地球の裏表にYKKがで  
き、それが善の巡環となって広がっ  
ているわけだ。

私はこうした展開のなかで、皆に  
常々話していることは、アメリカなら  
ばアメリカのYKK、ドイツならドイツ  
のYKKであって、決して日本のもの  
ではないということだ。

常に地域社会に貢献する、その国  
の経済に貢献するという風にやらな  
ければ、決して愛されないだろう。”

『吉田忠雄全集II 経営思想』より

また、海外で働く心得として、「そ  
の国の風俗、習慣、伝統というもの  
を尊重して自分はこの国に生まれた  
んだと思え」とも説いていました。  
私たちが今も大切にしている「土  
地っ子になれ」の考えです。

YKKグループは、YKK精神「善  
の巡環」に基づき、「土地っ子にな  
れ」の思いで、地域とともに繁栄す  
ることを常に念頭に置き、共に発展  
することに努めています。



創業者吉田忠雄と  
地域子どもたち